



## インフレ連動債と企業年金の将来像

先頃、厚生年金基金連合会から「企業年金の将来像」が発表された。2020年を目途に厚生年金基金と税制適格年金を統合した「企業年金法」を制定し、退職一時金を縮減する一方で、報酬比例の厚生年金はできるだけ企業年金に移行させる、という大胆な提言が盛り込まれている。

また、代行制度について、国際的な潮流（公的年金の民営化）から見ても妥当であり、積極的に推進すべき、と述べている。しかし、現在の代行制度は、スライド・再評価の部分を代行せず、いかにも不自然な形になっている。

そこで注目されるのが、この1月に米国が発行するインフレ連動国債である。代行給付の掛け金をインフレ連動債で運用すれば、スライド・再評価を含めた完全代行が可能になるのである。欧米の経験からは、デフインフレの時代に、このような債券は歓迎されないと思われるが、将来、完全代行の実現に最適な商品として脚光を浴びる可能性があるだろう。

### 《目次》

- ・ 年金運用：国際分散投資(2)ーグローバル資産を含むポートフォリオの最適化
- ・ 証券市場：信用リスクをとった債券投資
- ・ 年金制度：注目されるインフレ連動債